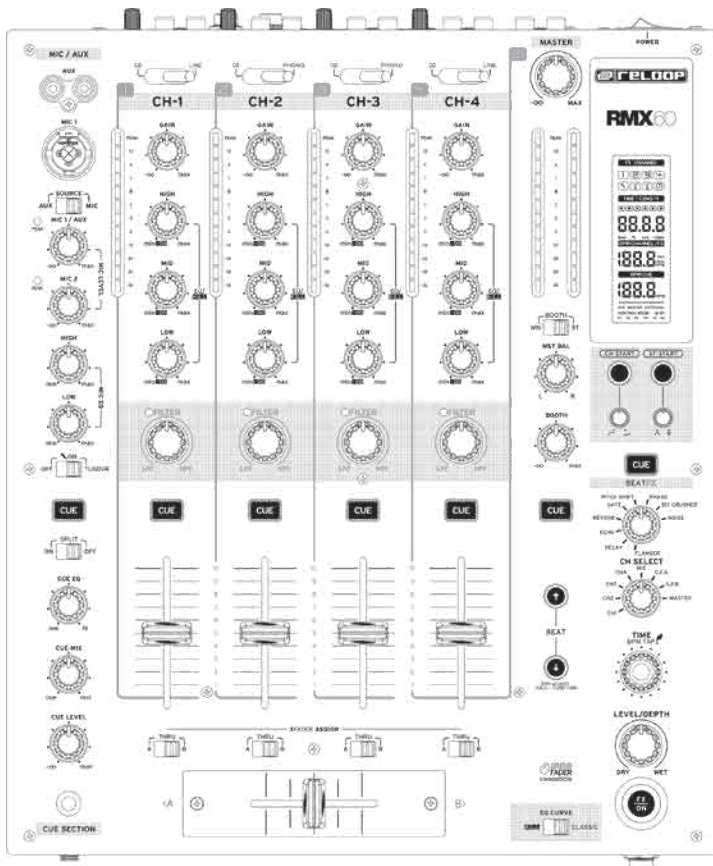


RMX60

D I G I T A L



注意！
 火事や感電の原因になるので、本機器を水や液体に触れないようにしてください。また、本機器を分解しないでください。

www.reloop.com
 Reloop Trademark
 Global Distribution GmbH
 Schuckertstr. 28
 48153 Muenster / Germany
 Schuckertstr. 28
 © 2013

dirigent.jp
 株式会社銀座十字屋
 ディリгент事業部

安全上の注意	3	3. エフェクト・ユニット	7
規則に従った使用方法について	3		
メンテナンス	3		
1. 概要	4	3.1 概要	7
1.1 外観	4	3.2 エフェクトの選択、ルーティング	7
1.1.1 トップパネル	4	3.3 エフェクターの種類	8
1.1.2 前面	5	3.3.1 Flanger	8
1.1.3 背面	5	3.3.2 Delay	8
1.1.4 ディスプレイ	5	3.3.3 Echo	8
		3.3.4 Reverb	8
1.2 各部の名称	5	3.3.5 Pitch Shift	8
1.2.1 入力チャンネル	5	3.3.6 Noise	8
1.2.2 Micチャンネル	5	3.3.7 Phase	9
1.2.3 ヘッドフォン・セクション	5	3.3.8 Bit Crusher	9
1.2.4 マスター・セクション	5	3.3.9 Gate	9
1.2.5 エフェクト・セクション	5	4. ビート・カウンター	9
1.2.6 ディスプレイ・セクション	5	4.1 Cue ビート・カウンター	9
1.2.7 接続部	5	4.2 チャンネルエフェクト・ビート・カウンター	9
1.3 接続部の説明	6	5. ファームウェア・アップデート	10
1.3.1 Line入力	6	6. 技術仕様	10
1.3.2 Phono入力	6		
1.3.3 マイク入力	6		
1.3.4 ヘッドフォン	6		
1.3.5 フェーダー・スタート	6		
1.3.6 マスター出力	6		
1.3.7 ブース出力	6		
1.3.8 REC出力	6		
1.3.9 電源入力	6		
1.3.10 USBポート	6		
2. 基本操作	6		
2.1 電源のON / OFF	6		
2.2 入力の選択	6		
2.3 ゲイン	6		
2.4 EQ (イコライザー)	6		
2.5 フィルター	6		
2.6 ボリューム・フェーダー	6		
2.7 クロスフェーダー	6		
2.8 フェーダー・スタート / クロスフェーダー・スタート	7		
2.9 Mic / Aux	7		
2.10 モニタリング	7		
2.11 マスター・セクション	7		

この度は、「Reloop RMX-60」をお買い上げいただき誠にありがとうございます。並びに弊社のDJテクノロジーに信頼を置いていただきありがとうございます。本機を使用する前に、この取扱説明書をよく読み、すべての指示に従って操作いただけますようお願いいたします。パッケージからReloop RMX-60を取り出し、製品を使用する前に製品の破損や欠品が無いことをご確認ください。電源ケーブルや、筐体に損傷があった場合は、製品を使用せずに、ご購入いただいた販売店にご連絡ください。

安全上の注意

警告!

電源ケーブル(100-240 V、50/60Hz)を取り扱うときは十分にご注意ください。この定格電圧は深刻な感電につながる可能性があります。取扱説明書の定める使用方法を遵守されない場合の損害はいかなる補償請求も対象外とします。メーカーは、資産に対する損害、または安全上の指示を遵守しない不適切な使用による人身損害の責任を負いません。

- 本製品は完全な状態で工場を出荷しています。この状態を維持してリスクのないオペレーションを確実にするためにユーザーは、この取扱説明書に記載されている安全に関する指示と警告を読む必要があります。
- 安全性と認可(CE)の理由から、本製品の未許可の改造、修正是禁止されています。本製品の未許可の修正に起因する損害の場合、どのような保証請求も除外される点にご注意ください。
- 外部から交換可能な消耗部品を除いて、製品の内部はメンテナンスを必要とするパーツはありません。資格を有するスタッフがメンテナンスを行なう以外は、保証が適用されません。
- ヒューズは、同じクラスのヒューズと交換しなければなりません。
- 本製品を完全にセットアップしたあとに、電源が供給するだけの状態であることを確認してください。常にメインプラグを最後に接続してください。製品に電源ケーブルを接続する際にメインスイッチが「オフ」の位置にあることを確認してください。
- 規格に準拠したケーブルのみをご使用ください。すべてのジャックやネジが締められ、正しく接続されていることを確認してください。ご不明な点がありましたら、お買い上げの販売店にご確認ください。
- 本製品をセッティングする際に、ケーブルが鋭い物によって押しつぶされ、損害を受けないようご注意ください。
- ケーブルが他のケーブルと接触しないようご注意ください。電源ケーブルを接続する際は、十分にご注意ください。濡れた手でこれらのパーツに決して触れないでください。
- 電源ケーブルは、耐震性のある電源アウトレットに接続してください。使用可能な唯一の電源サプライポイントは、公共の電源供給ネットワークの仕様に適合したアウトレットです。
- 使用しない場合、また掃除を行う前には本製品を電源アウトレットから外してください。その際、必ずケーブルのプラグを持つようにしてください。ケーブルを持って引き抜かないようにしてください。
- 本製品は、水平の安定した不燃性の高い場所に設置してください。
- 本製品を設置し、操作を行う場合には、激しい衝撃を与えないでください。
- 設置する場所は、本製品が過度の熱、湿度、ほこりにさらされない場所に設置してください。ケーブルが煩雑に置かれていないことを確認してください。上記を守れない場合、使用者を危険にさらす場合があります。
- 本製品の上に液体をこぼしやすい容器を置かないでください。万が一、液体が本製品内にこぼれた場合、直ちに電源プラグを抜いてください。再度使用する場合には、資格のあるサービス技術者によって確認された製品をご使用ください。製品内部への液体の混入による損害は保証の対象外となります。
- 極端な高温(35°C以上)、または極端な低温(5°C以下)で本製品を使用しないでください。直射日光、ラジエーター、オープン(閉じられた車内も含みます)などの熱源に直接触れるような場所に本製品を置かないでください。冷却ファンや通気孔をふさがないでください。常に十分な換気を確保してください。
- 本製品は、暖かい環境から冷えた環境に移動した直後に動作させないでください。この状況で起こる結露によって故障の原因となります。周囲の温度に達するまで電源を入れずにお待ちください。
- コントロールやスイッチには、クリーニング剤や潤滑油などのスプレーを使用しないでください。本製品は湿った布できれいに拭きとるだけにしてください。クリーニングのために石油ベースの溶剤や、洗浄液を使用しないでください。
- 本製品を移動や、輸送する際、購入時に梱包されていた箱をご使用ください。
- 本機の操作を開始するときに、アンプのフェーダーや、ボリュームコントロールが最小レベルになっていることを確認してください。パワード・スピーカーの電源スイッチは“オフ”であることを確認してください。一時的な影響で起こる場合のあるショットノイズよりスピーカー等の機器の破損を避けるために8~10秒間程度待ってからボリュームを上げてください。
- 電気を供給される本製品は小さなお子様の手の届かない場所に保管してください。また、お子様のいる環境下でのご使用には十分ご注意ください。
- 商業的な施設でプロフェッショナルな組織のオーガナイズによる事故防止のための規則を遵守しなければなりません。
- 学校、トレーニング施設、趣味、ワークショップなどで本製品を使用する際は、訓練されたスタッフの責任を持って監視する必要があります。
- 後に質問や問題が発生した場合、参照するためにこの取扱説明書を安全な場所に保管してください。

規則に従った使用方法について

- 本製品は、オーディオ信号を入力、ミキシングするためのDJミキサーです。本製品は、入力ソースとオーディオケーブルで接続されなければなりません。
- 本製品は、付属の電源アダプタを介して100-240V、60/50HzのAC電源に接続するために認可されており、室内使用専用で設計されています。
- 取扱説明書に記載されている目的以外のために本製品を使用する際、製品に損害が起こる場合があります。それは保証の対象外となります。また、指定した目的に準拠しない使用方法ではサーキットのショート、火災、電気ショックなど、危険を伴う場合があります。
- メーカーによって決められているシリアルナンバーは、保証の権利を証明するために大切に保管してください。

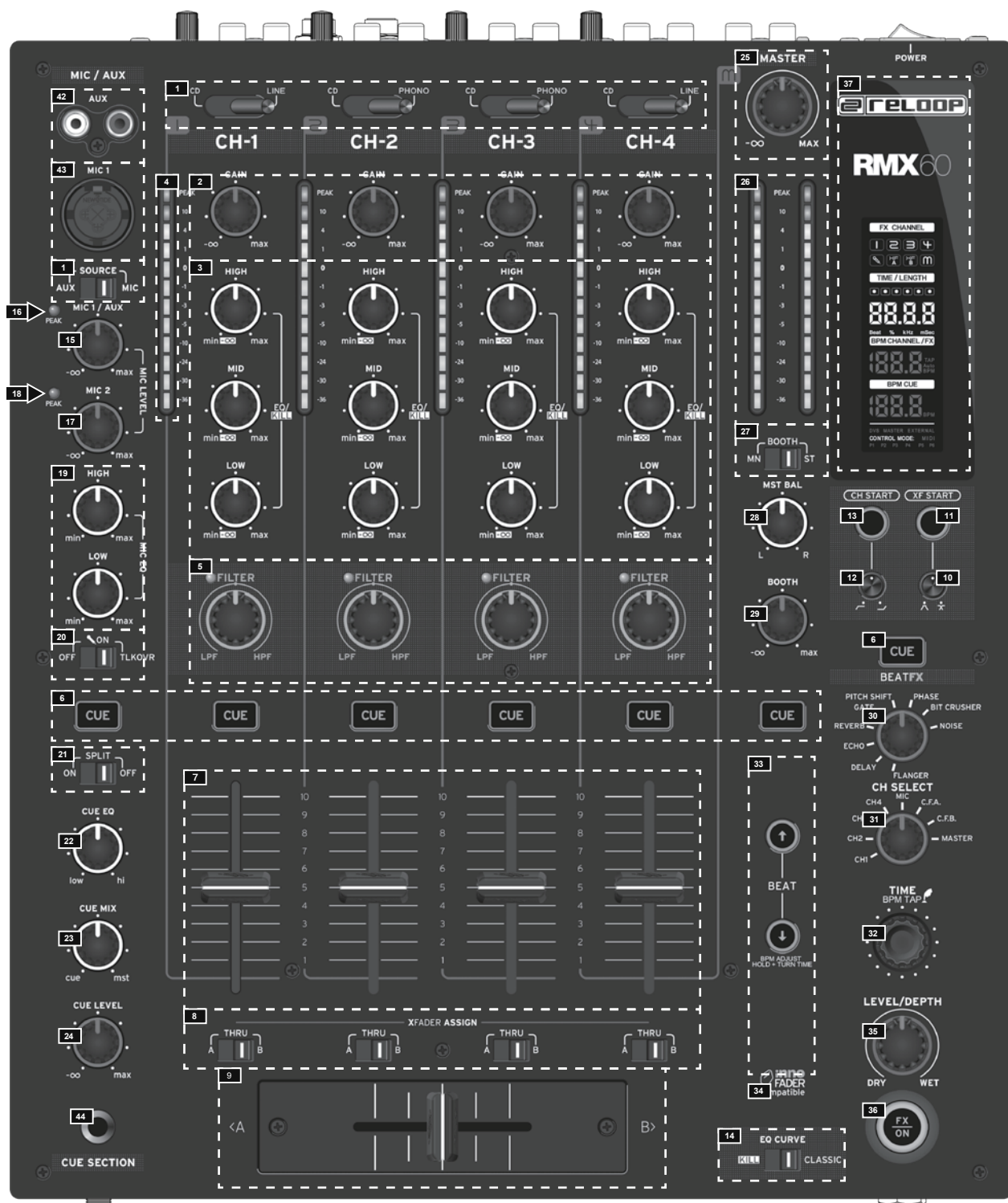
メンテナンス

定期的な電源ケーブル、またはケースへの損傷、ならびに本体のパーツ(ノブ、スライダーやフェーダー)、製品への取り付けに関する技術的な安全をチェックしてください。安全な操作が可能ではないと仮定される状況下では、直ちに本製品の使用をやめ、安全を確保してください。常に電源プラグをアウトレットから外してください。本製品が、好ましくない状況下、または輸送ストレス後の長期間保存によりデバイスが機能していない、または目に見える欠陥を負った場合、安全な操作は不可能だと仮定しなければなりません。

1.概要

1.1 外観

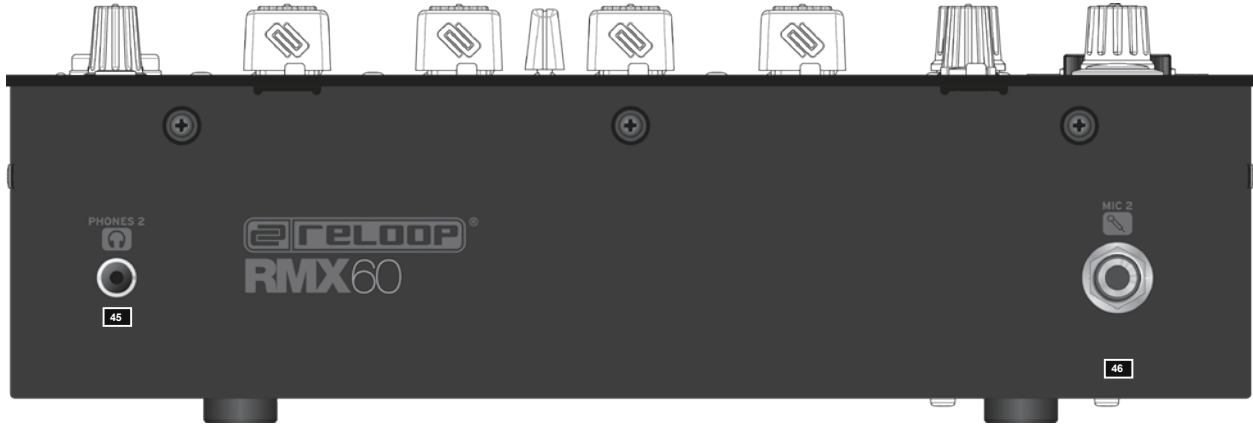
1.1.1 トップパネル



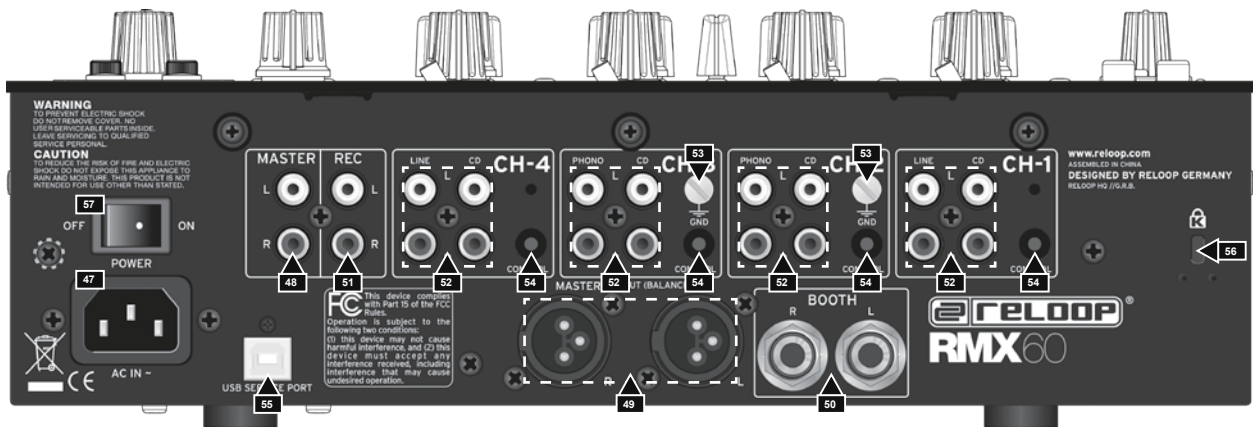


1.1.4 ディスプレイ

1.1.2 前面



1.1.3 背面



1.2 各部の名称

1.2.1 入力チャンネル

1. インプット・セレクト(Phono / CD / Line)
2. ゲイン
3. 3バンド EQ
4. レベルメーター (入力信号)
5. フィルター・ノブ
6. CUEボタン(モニタリング)
7. ボリューム・フェーダー
8. クロスフェーダー・アサイン・スイッチ
9. クロスフェーダー
10. クロスフェーダー・カーブ調整
11. クロスフェーダー・スタート・スイッチ
12. ボリュームフェーダー・カーブ調整
13. フェーダー・スタート・スイッチ
14. EQカーブ・スイッチ

1.2.2 MICチャンネル

15. Mic 1 / AUX ボリューム
16. ピークLED (Mic 1 /AUX)
17. Mix 2 ボリューム
18. ピークLED (Mic 2 /AUX)
19. 2バンドEQ (Mic 1 / 2)
20. Mic オン/オフ・スイッチ

1.2.3 ヘッドフォン・セクション

21. スプリット・スイッチ
22. モニタリングEQ
23. CUE / MIXノブ
24. CUEボリューム (モニタリング)

1.2.4 マスター・セクション

25. マスター・ボリューム
26. マスター出力レベルメーター
27. モノラル/ステレオ切替・スイッチ (ブース出力)
28. バランス・ノブ (マスター出力)
29. ブース・ボリューム

1.2.5 エフェクト・セクション

30. FX選択・ノブ
31. FXチャンネル・セレクト
32. タイム・エンコーダー/ タップ・ボタン(BPM)
33. タイム・パー・ボタン (+)
34. タイム・パー・ボタン (-)
35. FXレベル/デブス・ノブ
36. FXオン / オフ・スイッチ

1.2.6 ディスプレイ・セクション

37. FX・ディスプレイ
38. FXチャンネル・ディスプレイ
39. FXタイム・ディスプレイ
40. FX BPM・インジケータ
41. CUE BPM・インジケータ

1.2.7 接続部

42. AUX入力 (RCAピン)
43. MIC 1入力 (標準フォン / XLR)
44. ヘッドフォン出力端子1 (6.3mm)
45. ヘッドフォン出力端子2 (3.5mm)
46. MIC 2入力 (標準フォン)
47. 電源ケーブル入力端子
48. マスター出力端子 (RCAピン)
49. マスター出力端子 (XLR)
50. ブース出力端子 (標準フォン)
51. REC出力端子 (RCAピン)
52. チャンネル入力端子 (RCAピン)
53. アース端子
54. フェーダー・スタート入力端子
55. USB B入力
56. 盗難防止ワイヤー接続
57. 電源オン/オフ・スイッチ

1.3 接続部の説明

1.3.1 LINE入力

チャンネル1-4に、LINE出力（CDプレイヤー、DJコントローラー等）のソースを接続します。-52-

1.3.2 PHONO入力

チャンネル2-3にPHONO出力（ターンテーブル）の機器を接続します。-52-
機器によっては必ずアース端子-52-にアース線を接続してください。

1.3.3 マイク入力

マイクをMic 1入力-43-に入力します。 マイクをMic 2入力-46-に入力します。

1.3.4 ヘッドフォン

ヘッドフォンをヘッドフォン出力端子-44-または-45-を接続します。

1.3.5 フェーダー・スタート

CDプレイヤーのフェーダースタート・ケーブルをフェーダースタート入力端子-54-に接続します。

1.3.6 マスター出力

マスター出力-48-(RCAピン)または-49-(XLR)にオーディオケーブルを接続し、サウンドシステムと接続します。

1.3.7 ブース出力

ブース出力-50-にオーディオケーブル（標準フォン）を接続し、モニタリングシステムと接続します。

1.3.8 REC出力

レコーディング機器とオーディオケーブル（RCAピン）を接続します。 信号レベルはマスター出力とは独立しています。

1.3.9 電源入力

付属のACアダプタを電源アダプター入力端子-47-に接続します。

1.3.10 USBポート

詳細はP8のファームウェア・アップデートをご覧ください。

2 基本操作

2.1 電源のON/OFF

ボリューム・フェーダーや外部アンプ、スピーカーの音声が下がっていることを確認して、電源スイッチ-57-を入れます。

2.2 入力の選択

インプット・セレクト-1-で利用する音源ソースを選択します。

2.3 ゲイン

音源ソースを再生し、ゲイン-2-を回します。レベルメーター-4-が赤色にならないように調整します。
Mic/AUXボリューム-15/17-の場合は、ピークLED-16/18-が点灯しないように調整します。

2.4 EQ（イコライザー）

3バンドEQ-3-ノブを使って、ch1-ch4の音質を高域(HIGH)、中域(MID)、低域(LOW)で調整します。

2.5 フィルター

フィルター・ノブ-5-を使って、ch1-ch4にフィルターを適用します。12時の状態でフィルターが無効になります。
時計回りでハイパス・フィルター、反時計回りでローパス・フィルターになります。

2.6 ボリューム・フェーダー

ボリューム・フェーダー-7-を使って、ch1-ch4の出力する音量を調整します。ボリューム・フェーダーのカーブはカーブ調整-12-を使って調整します。
12時の状態がフェーダーと音量が同期した状態になります。

2.7 クロス・フェーダー

クロス・フェーダー-9-はch1/ch2のデッキ間をフェードすることができます。クロスフェーダー・アサイン・スイッチ-8-で各chのクロスフェーダーへの割当を設定できます。
カーブ調整-10-を使って、フェーダーのカーブを調整することができます。スクラッチプレイを行うは、左回り。ロングミックスを行う場合は右回りがよいでしょう。
尚、本機はReloop RMX Inno Faderに対応しているので、スクラッチプレイを多用される方はRMX Inno Faderへの交換をお勧めします。

注意：THRUが選択されているときは、クロスフェーダーは割当てられません。

2.8 フェーダースタート / クロス・フェーダースタート

対応するCDプレイヤーをお持ちの場合は、専用ケーブルを端子-9-または-7-に接続し、スイッチ-13-または-11-が有効になっているときに、フェーダースタート/クロスフェーダー・スタートが開始されます。

クロス・フェーダースタート：

クロスフェーダーを左に切った状態では、クロスフェーダー“A”にアサインされたCDプレイヤーが再生され、“B”に接続されたCDプレイヤーはキューポイント待機または停止します。
クロスフェーダーを右に切った状態では、クロスフェーダー“A”にアサインされたCDプレイヤーが再生され、“A”に接続されたCDプレイヤーはキューポイント待機または停止します。

フェーダースタート：

ボリューム・フェーダーを一番下に切ると、CDプレイヤーがキューポイント待機または停止します。
ボリューム・フェーダーを上を切ると、CDプレイヤーが再生します。

注意：

CDプレイヤーによって、フェーダースタート機能の使い方は様々ですので、それぞれのマニュアルもご参考ください。

2.9 MIC / AUX

Micオン/オフ・スイッチ-20-で、Mic入力に接続したマイク入力信号を有効します。
ボリュームはMix/Auxボリューム-15-/-17-で調整することができます。

2.10 モニタリング

CUEボタン-6-を押すと、選択したチャンネルのモニタリングをします。

CUE/MIX-23-のノブで、マスター出力とCUEボタンを押したチャンネルの音量バランスを調整します。左方向に振ると選択されたチャンネルの信号がヘッドフォンに出力され、右方向に振るとマスター出力の信号がヘッドフォンに出力されます。ミックスされる結果を予め試聴する場合は、ノブを12時方向にすると良いでしょう。

CUE EQ-22-でヘッドフォンの音質を調整できます。

2.11 マスター・セクション

マスターボリューム-25-で本機から出力される最終的な音量を調整します。マスター出力レベルメーター-26-で赤色の範囲まで出力されないように調整すると良いでしょう。
バランス・ノブ-28-でマスター出力の左右のバランスを調整します。ブースボリューム-20-でDJブース内の音量を調整します。

注意：Rec出力-51-にはマスターボリューム、ブースボリュームは影響しません。

3 エフェクト・ユニット

3.1 概要

本機には下記のDSPエフェクトが搭載されています。パラメータはLCDディスプレイ-37-に表示されます。
Flanger、Delay、Echo、Reverb、Pitch Shift、Noise、Bit crusher、Gate、Phaser

3.2 エフェクトの選択、ルーティング

FX選択・ノブ-30-で任意のエフェクトを選択します。選択されると同時に有効状態になります。

FXチャンネル・セレクト-31-で、エフェクトを割当てるチャンネルを(1、2、3、4、Mic、CF A、CF B、マスター) 選択します。

FXチャンネル・ディスプレイ-38-にエフェクトが割当てているチャンネルを表示します。

エフェクトを実際に適用するには、FXオン/オフ・スイッチ-36-を押し、FXレベル/デプス・ノブ-35-で原音とエフェクト音を調整します。

いくつかのエフェクト・パラメーターはタイム・エンコーダー/タップ・ボタン-32-で調整するか、タイム・バー・ボタン-33-/-34-で調整することができます。パラメーターはディスプレイ部分に表示されます。

3.3 エフェクターの種類

3.3.1 FLANGER 2つの音声信号の時間を微妙にずらすことで、ジェットサウンドを得ます。

レベル/デプス：原音とエフェクト音の比率を設定します。

タイム・エンコーダー：タイムラグをミリ秒単位で調整。ボタンを押し続けると、50ミリ秒ずつ調整ができます。

タイム・バー・ボタン：拍単位でタイムラグを調整します。

3.3.2 DELAY 原音に対して、エフェクト音を遅らせます。

レベル/デプス：原音とエフェクト音の比率を設定します。

タイム・エンコーダー：タイムラグをミリ秒単位で調整。ボタンを押し続けると、50ミリ秒ずつ調整ができます。

タイム・バー・ボタン：拍単位でタイムラグを調整します。

3.3.3 ECHO 原音に対して、エフェクト音を遅らせて、山びこの様な効果を得ます。

レベル/デプス：原音とエフェクト音の比率を設定します。

タイム・エンコーダー：タイムラグをミリ秒単位で調整。ボタンを押し続けると、50ミリ秒ずつ調整ができます。

タイム・バー・ボタン：拍単位でタイムラグを調整します。

3.3.4 REVERB 原音に対して、残響を加えます。

レベル/デプス：原音とエフェクト音の比率を設定します。

タイム・エンコーダー：残響をシミュレートするルームのサイズを調整します。

タイム・バー・ボタン：仮想のリバース・ルームサイズを選択します。

3.3.5 PITCH SHIFT 原音に対して、音程を変更します。

レベル/デプス：このエフェクトでは使用できません。

タイム・エンコーダー：音程を調整します。ボタンを押し続けると、音程をリセットします。

タイム・バー・ボタン：1-1の時に原音と同じ音程。ボタンを押ししていくことで、25段階の音程に調整ができます。

3.3.6 NOISE ノイズを加えます。

レベル/デプス：ノイズ量を調整します。

タイム・エンコーダー：LFOの速度を1ミリ秒単位で調整し、揺らぎを得ます。

タイム・バー・ボタン：1-4の時にLFOが働かない状態。ボタンを押ししていくことで、LFOの速度を調整します。

3.3.7 PHASE 原音に対してタイムラグを与えて、位相に変化を与えることで、ロータリー・スピーカーの様なサウンドを得ます。

レベル/デプス：原音とエフェクト音の比率を調整します。

タイム・エンコーダー：位相の変化する量を調整します。

タイム・バー・ボタン：位相の変化する一定時間を調整します。

3.3.8 BIT CRUSHER 原音を破壊して、意図的にチープなサウンドにします。

レベル/デプス：原音とエフェクト音の比率を調整します。

タイム・エンコーダー：音質を-100~+100で調整します。

タイム・バー・ボタン：音質を一定の単位で-100~+100で調整します。

3.3.9 GATE 入力される信号レベルによって、ブツ切りの様な効果を得ます。

レベル/デプス：原音とエフェクト音の比率を調整します。

タイム・エンコーダー：エフェクトが掛かり始める値(閾値)を細かく調整します。

タイム・バー・ボタン：エフェクトが掛かり始める値(閾値)を右記の単位で調整します。

1-4	→	-2dB
1-2	→	-3dB
3-4	→	-4dB
1-1	→	-6dB
2-1	→	10dB
4-1	→	20dB

4 ビート・カウンター

本機には2つのビート・カウンターが搭載されています。

4.1 CUE ビート・カウンター

各チャンネルに入力された信号のビートを計測。Cueボタン-6-を押すと有効になります。

計測された結果はCUE BPM・インジケーター-41-に表示されます。

4.2 チャンネル/エフェクト ビート・カウンター

自動または手動の2つの方法でトラックの速度を決定します。

タップ・ボタン-32-をビートに合わせて4回タップすると計測ができます。

注意：本機のビート・カウンターはBPMが80と160に最適化されていますが、自動BPM計測を行う際にごく稀にBPM80を160BPMと計測することがあります。このような場合はタップボタンを使った手動での計測を行ってください。

5 ファームウェア・アップデート

本機は USB ポート - 55 - とコンピュータを接続することで、本体ファームウェアを更新する機能が搭載されています。本機の電源を切り、フェーダー・スタート・スイッチ -13 - と クロスフェーダー・スタート・スイッチ - 11 - を押しながら電源を投入すると、ファームウェア更新モードになります。

ファームウェアは常時更新されるので、Reloop およびディリгентのサイトを常にチェックしてください。

1. 対応するファームウェア・プログラムをダウンロードします。
2. プログラム "ReloopFirmwareUpdate.jar" を起動します。
3. "Open File" をクリックし、最新のデータ (***.bin) を選択します。
4. "Start >" をクリックすると、ファームウェアの更新が開始されます。
5. 更新が成功したら、本機の電源を切ります。

操作に不安があれば、販売店やディリгентサポートまでご相談ください。



6 技術仕様

名称 :	4チャンネルDJミキサー
電源 :	AC 100 - 240 V , 50 / 60 Hz
寸法 :	320 x 107.5 x 386.7 mm (W x D x H)
重量 :	6.8kg
入力 :	
Line / CD / :	10k ohm / -14dBV (200mV)
Phono :	47k ohm / -50dBV (3.16mV)
Aux :	10k ohm / -14dBV (200mV)
Mic 1 :	6.8k ohm / -54dBV (1.99mV)
Mic 2 :	6.8k ohm / -54dBV (1.99mV)
出力 :	
Master :	1k ohm / 0dBV (1V)
Balanced :	600 ohm / 0dBV (1V)
Booth :	600 ohm / 0dBV (1V)
Rec :	1k ohm / -10dBV (316mV)
Phones :	33 ohm / -3dBV (708V)
周波数特性 :	20 - 20K Hz (+12dB / < -26dB)
S/N比 :	
PHONO :	85 dB
Line :	85 dB
Aux :	85 dB
Mic 1 :	92 dB
Mic 2 :	92 dB

7 製品サポートについて

本書をご覧いただいても解決できない問題がございましたら、Dirigent カスタマーサポートまでご連絡ください。なお、サポート・サービスをご利用いただくためには、Dirigent へのユーザー登録が必要です。登録の確認ができない場合、サポート・サービスをご利用いただくことができません。予めご了承ください。

■Dirigentへのご登録方法 :

Dirigentサポートページにアクセスし、Reloopオンライン登録フォームよりご登録をお願いいたします。

■Dirigentカスタマーサポート :

電話でお問い合わせの際は、Dirigent へのご登録確認のため、お名前・製品名・製品シリアルナンバーをお伺いいたします。また、メールでのお問い合わせは、Dirigent サポートサイトのお問い合わせフォームをご利用ください。

電話番号 : 03-6264-7820 (受付時間 : 平日10:30~17:00)

休業日 : 土日祝日および弊社特別休業日

Dirigentサポートサイト : <https://dirigent.jp/support/>